

国民各層との対話（地方での意見交換会 高知） 議事要旨

1．日時：平成20年8月5日（火）15：15～16：30

2．場所：高知県職員能力開発センター 2階

3．出席者（順不同・敬称略）

吉野 源太郎（内閣府官民競争入札等監理委員会 委員）
岸 道雄（内閣府官民競争入札等監理委員会 専門委員）
中山 拓也（入交住環境株式会社 取締役統括部長）
奥田 敏弘（入交住環境株式会社 設備グループ長）
松本 敏（株式会社アークデザイン研究所 専務取締役）
半田 雅典（高知県ボランティア・NPOセンター 所長）
谷脇 禎哉（高知市企画財政部行政管理課 課長補佐）
川村 晶子（高知県総務部行政管理課 アウトソーシング推進アドバイザー）
吉村 大（高知県総務部行政管理課 企画監）
彼末 悟（高知県総務部行政管理課 チーフ）
大石 佳代（高知県総務部行政管理課 主任）
森實 一宏（高知県総務部行政管理課 主幹）
仙頭 裕貴（高知県総務部財政課 主査） *当日、急遽出席
事務局2名（内閣府官民競争入札等監理委員会事務局
岩城参事官補佐、沼田参事官補佐）

4．進行次第

（1）自己紹介及び取組内容紹介

高知県

入交住環境株式会社

株式会社アークデザイン研究所

高知県ボランティア・NPOセンター

高知市

（2）自由討議

5．配付資料

資料1 出席者一覧

資料2 高知県 提出資料

資料3 高知市 提出資料

参考資料 公共サービス改革法の概要

6. 意見交換会 概要

(1) 自己紹介及び取組内容紹介

【高知県 吉村企画監】

- 南海地震への備え、少子高齢化、若者の県外流出、団塊世代の大量退職などの問題に直面し、仕事のやり方を変えていかなければならない中で、民間との協働によるアウトソーシングという手法を取り入れて、サービスの質を高めながら行政のスリム化を図ることとなった。
- 民間の専門性、ノウハウを活かしてもらい、民間でできることは民間に任せることによって、行政の職員がやらなければならない業務に集中することができるようになった。
- アウトソーシングを進めると同時に、業務、現行コストの可視化、モニタリング手法の確立に努めてきた。
- 地域に仕事を出し、お金が地域でグルグル回るようにすることによって、ビジネスチャンスの拡大、雇用の創出といった地域の振興、活性化に貢献したい。また、行政業務を担うことのできる受け皿づくりも主目的である。
- 通信手段を活用したテレワーク発注によって、就業機会の少ない地域でも業務を担っていただく機会を拡大するとともに、地域活性化の担い手を育成したい。
- アウトソーシング説明会を開催し、県内民間事業者に業務の情報を事前に提供するようにしている。まずは県庁の仕事をこなすことで、公共の使命を担う力をつけてもらっている。

【入交住環境株式会社 中山取締役統括部長】

- 高知城のある高知公園にて、高知公園管理組合（入交グループ）として指定管理者をしている。

【株式会社アークデザイン研究所 松本専務取締役】

- 高知県の広報誌の編集デザイン、Webデータの作成を行っている。

【高知県ボランティア・NPOセンター 半田所長】

- 高知県からNPO法人設立等支援業務を受託し、NPO法人設立認証、定款変更、事業報告書に関する相談・書類作成の支援を行っている。
- NPO法人設立等支援業務を受託したことによって、NPOに対して設立

から経営実務に関することまで一貫した支援ができるようになり、当センター、NPOの両方にメリットがあった。

- NPOがアウトソーシング業務を受託することによって、活動が広がり、資金面での安定性が確保できればよいが、NPOの本来目的との整合性を考えておかないと、逆に本来の活動が制限されてしまう危険性もある。

【高知市 谷脇課長補佐】

- 今年度より50項目の事務事業について、アウトソーシングを実施していく。
- 本年2月に高知県主催のアウトソーシング説明会に参加した。

(2) 自由討議

【事務局】

- 共通論点として3つの意見交換テーマについて説明。
1つ目は公共サービスの担い手、事業者の立場から民間でも担うことができる公共サービスには、どのような事業があると考えていますか。また、どの公共サービスならもっと民間の創意工夫を活かせると考えていますか。
2つ目は公共サービスの受益者の立場から行政が提供する公共サービスにはどのような問題点があって、民間に任せることによりどのような点で改善されと考えられますか。また、公共サービスの受託者の立場からはいかがでしょうか。
3つ目は地方公共団体の立場から、対象事業を選定して市場化テストを導入するにあたり、公共サービス改革法に基づく制度において、環境整備が遅れていると感じる部分はどこにありますか。
という点を踏まえて、自由討議とさせていただきます。

【内閣府官民競争入札等監理委員会 岸専門委員】

- 民間事業者の立場から民間事業者が担える公共サービスにはどのような事業があり、どの公共サービスならもっと民間の創意工夫を活かせるかについてお聞かせ願いたい。

【入交住環境株式会社 奥田設備グループ長】

- 公共サービスといっても、質的にも量的にもかなりの規模があり、ピンとこないところがある。基本的に、住民と直接やりとりするものは民間でも可能ではないかと考える。

【内閣府官民競争入札等監理委員会 岸専門委員】

- どれくらいの事務事業があるのかは民間事業者には分かりづらい。事務事業評価によって全事務事業を公開している地方公共団体もあるが、そうでないところもあるのでなかなかイメージはしづらいだろう。

- 大雑把ではあるがどのような分野を民間に出せるのかの基準はある。1つは複数の事業者が存在していること。2つ目は業務に不確実性が低いこと。3つ目は使用する資産、人的能力（スキル、知識）の特殊性が強くないこと。

【内閣府官民競争入札等監理委員会 吉野委員】

- 全く官がやる必要がない業務、官が責任を持つが役人が直接やる必要がない業務、官が直接やる必要がある業務がある。ここで今、対象にしている業務は、2番目の官が責任を持つが役人が直接やる必要がない業務である。
- サービスの質と価格の両面で評価をし、最も優れた担い手に任せるのが官民競争入札であり、民間に任せる業務の洗い出しの決め手になるだろう。そこまでいなくてもアウトソーシングを実施していくことにより、コスト構造やサービスの質と内容を明らかにして、結果として、受益者である住民にとって一番メリットがあるのはどの方法かを検討していくことが重要である。
- ほとんどの業務がアウトソーシングの対象となりうるのではないかと考えている。

【株式会社アークデザイン研究所 松本専務取締役】

- 市町村合併による広域化と組織のスリム化により、今まで地域単位で実施していた地元特有の祭りや特産品の販売、景観づくりなどの特色が薄れている。
- ただ事務を外に出すのではなく、地域を育てるという視点を含めてアウトソーシングを進めていくことが重要である。

【内閣府官民競争入札等監理委員会 吉野委員】

- アウトソーシングを進めていくことによって、公共サービスの新たな担い手を育てることにもなる。

【株式会社アークデザイン研究所 松本専務取締役】

- 試行錯誤しながらアウトソーシングを進めていくことによって、ビジネスチャンスになることもある。

【入交住環境株式会社 奥田設備グループ長】

- 地元の方が中心となって地場産品をブランド化してやっているところもあるのではと思うが。

【高知県ボランティア・NPOセンター 半田所長】

- そういったことも地域おこし団体はやっている。NPOはその分野に関心のある人が集まっているので、行政よりも市民の参加・参画を促すことが上手である。行政の場合はどうしても向き合ってしまう、民間は要望する立場になりがちである。

【内閣府官民競争入札等監理委員会 岸専門委員】

- 具体的にはどういった分野になるのか。

【高知県ボランティア・NPOセンター 半田所長】

- 施設の管理で言えば、これにイベントや展示、施設の運営の面が加われば、そこ

に関心のある思い入れのある人が集まるので、ボランティアとして住民を巻き込む可能性は十分ある。ただ、まだまだ組織基盤が弱い団体も少なくない。

【内閣府官民競争入札等監理委員会 吉野委員】

- ボランティアとNPOの境目が問題になるケースがある。実際、活動をしているといっても、ボランティアでないと成立しないようなケースがある。ボランティアに頼り過ぎて、事業を継続していけるのかという懸念がある。

【高知県ボランティア・NPOセンター 半田所長】

- 住民の参加を促していくためにも、必要な対価は受け取るようにしてNPOの組織体力を強化していかなければならないと思っている。

【内閣府官民競争入札等監理委員会 吉野委員】

- 行政の財源に頼らないことをボランティアやNPOの活動条件としてしまうと、事業を継続できなくなる可能性があるのではないかと。

【高知県 吉村企画監】

- 最近、提案募集した案件で、行政の委託料の規模よりもサービス内容を充実させるために協賛金を集めるといった民間事業者が現れた。今の制度では柔軟に対応できないルールがあるが、前向きに取り組むことによって職員の意識も変えていきたい。

【入交住環境株式会社 奥田設備グループ長】

- 条例・規則がもともと民間が事業を行うことを想定していない。民間の創意工夫を活かそうにも、その前の段階で押さえ込まれているところがある。
- サービスの質の向上、収入の増などを図る上で創意工夫を働かそうとしても条例が壁になっている。すぐに変えるという発想がないと民間の意欲もなえてしまう。

【内閣府官民競争入札等監理委員会 吉野委員】

- 儲けた場合の利益処分はどうなっているのか。

【高知県 吉村企画監】

- 現行の指定管理者制度では、黒字になった場合は返してください、赤字になった場合は被ってくださいとなっているものがあり、これだとモチベーションが全く上がらないだろう。

【内閣府官民競争入札等監理委員会 吉野委員】

- 黒字になったら返せという根拠はあるのか。

【高知県 吉村企画監】

- 予算は十分確保しているので、それを上回る金額は必要ないという考え方による。

【株式会社アークデザイン研究所 松本専務取締役】

- 高知県から受託している広報業務の場合、オリエンテーションの際に作業内容の具体的なフレームが提示されている。広報紙の作成において、紙面をいかに見せるかということは重要であり、グラフィックデザインや紙面編集などの技術のア

ウトソーシングは必要と考える。ただ、時代の移り変わりとともに、メディアの活用も多様化している。アウトソーシングによって、公共サービスの向上を図るならば、デザイン技術だけでなく、メディアの活用なども含めてトータルな視点でノウハウを活用する方法もあるのではないかと思う。例えば、情報の到達力を高めていくために、どんな広報の仕方があるか、紙媒体や電子媒体をどのように活用するか、そんなプレゼンテーションができるなら、そこに新しいアイデアも生まれてくるのではないか。

【内閣府官民競争入札等監理委員会 岸専門委員】

- 発注される段階でフレームがかっちり決められていて、民間事業者が創意工夫を働かせる余地がなくなってしまうということではないか。

【株式会社アークデザイン研究所 松本専務取締役】

- 最優先は事業目的の達成だと思う。提示された条件のなかで、いかに実現を図るかを考えることができたと思う。となると、提案の段階からもう少し創意工夫の余地を与えてくれば、もっと面白い展開になっていく可能性もあるのではないか。

【入交住環境株式会社 中山取締役統括部長】

- 仕様に柔軟性がないため、民間の発想が十二分に活かされていない。

【内閣府官民競争入札等監理委員会 岸専門委員】

- 地方公共団体の立場で、市場化テストを進めていくにあたり、環境整備が遅れていると感じる部分はあるか。

【高知県 吉村企画監】

- 成果の定量的・定性的評価をどう実施するか。
- 委託の期間やボリュームによっては、コストとの見合いで非正規雇用の方が配置されることがある。コストを考えるとそうなるのだが、労働条件へのしわ寄せが憂慮される。そういったこともあり、低価格入札の評価の手法に悩んでいる。

【高知市 谷脇課長補佐】

- 発注の段階で、行政として求めるサービスの質と水準がどの程度であるのかを民間事業者にはっきりと提示する必要があるが、今やっている行政の水準でしか物が見えていない。
- 現在の公共サービスの質の水準が公共サービスの水準として適正であるのかが議論されていない。そのため、民間のノウハウも活かしきれていないのではないか。

【高知県 川村アドバイザー】

- 民間から高知県庁で働くようになった立場から意見を言わせてもらうと、行政の長い間続いてきた枠組みの中で、変えたくても変えられない状況があり、悶々としている行政職員がいることを感じている。
- 予算規模の小さい事業もアウトソーシングすることによって、仕事のやり方を変

えていいんだという雰囲気が生まれている。

- 学び考え、経済性だけでなく公共性を高めていくプロセスが必要である。
- 本質は仕組みではなく、一人ひとりの職員が考えて行動していくことにある。時代の変化に対応して、仕事のやり方を変えていけることが重要である。

以上